

## 「市長と語ろう！地域の未来」意見交換要旨

### ● 日時

令和8年2月6日（金） 16：30～18：20

### ● 会場

姫路市役所10階 第2会議室

### ● 参加者

姫路市立姫路高等学校 3年生1名、2年生2名

兵庫県立姫路西高等学校 2年生3グループ10名

### ● 出席者

市長、総合教育監、健康福祉局長、教育次長、企画政策室長、水産漁港課長、  
観光コンベンション室主幹

### ● 主な意見交換内容

#### (1) Z世代が求めるリーダー

##### 《高校生の探究発表》

時代とともに、求められるリーダー像が変化していることに着目し、協調性が高く競争を避けるという特徴がある「Z世代」の自分たちが求めるリーダー像について、探究を行った。

具体的には、校内の各部活動のマネージャーに対してアンケート調査を実施し、部内の人間関係を図に表してもらうことにより、各部活動のリーダーを、周囲を引っ張っていく「支配型」と、周囲を支える「サーバント型」に分類した上で、各部活動の成績との関連性を調査した。

その結果、リーダーが「支配型」の部活動ほど成績がよく、「サーバント型」の部活動は結果が出るまでに時間を要すること。加えて、どちらにも分類されない「中間型」のリーダーもいることが判明した。

それらを踏まえ、自分の中での最強のリーダーは、「チームの目標に合わせて、支配型、サーバント型のどちらにもなれるリーダー」と定義付けた。

##### 【市への提案】

自らが探究科学コースに進学するきっかけとなった、高校生が小学生に探究活動の楽しさを教える授業（小高連携事業）に言及し、探究活動において、学年や学校を超えた交流の機会を増やすよう提案した。

##### 《意見交換》

##### 【市長】

非常に面白い着眼点だ。現代に求められるリーダー像として、コミュニケーション能力が非常に重要だと感じた。

各部活動について、リーダーのタイプと成績との関連性を調査し、「支配型」の方

が成績がよいとの結論を得たが、成績がよければ、よいリーダーであるとは言い切れないのではないか。例えば、部員の退部率との関連性を調査した場合、違った結果が見えてくるかもしれない。評価の軸をどこに置くかによって、理想とされるリーダー論は変わってくるため、様々な角度から考えてみると面白いと思う。

#### 【総合教育監】

発表の中で、様々な世代に「あなたにとってリーダーとは？」と問うアンケート調査を実施していたが、どれくらいの人数に聞いたのか。

#### 【高校生】

20代以上の社会人については、各世代3人ずつくらいで、高校生については、市立3高校の生徒たち約300人に対して、調査を実施した。

#### 【総合教育監】

他の発表者にも通ずる話であるが、調査結果を報告する際には、サンプル数も明らかにしてもらえれば、より聞き手に伝わりやすいのではないかと思う。

また、小学生の時に、高校生から探究活動の楽しさを教わったとのことであるが、どのような楽しさを伝えればよいか、ヒントをもらえないか。

#### 【高校生】

小学生の時は、探究活動は難しいものだと思っていた。しかし、高校生と一緒に「割れにくいシャボン玉を作る」というテーマで実験を行い、遊びながら学べるということが、非常に印象に残っている。

#### 【総合教育監】

参考にしたい。

## (2) 緊張・プレッシャーがスポーツに与える心理影響

### 《高校生の探究発表》

陸上競技に打ち込む中で、試合前の心理状態により、結果が大きく変わったことから、今後の競技生活や将来指導者になった際に活かせるよう、自分の持つ能力を最大限に発揮するために、緊張やプレッシャーに打ち勝つ方法を探究した。

具体的には、病気のため試合直前まで満足に練習できなかった中、開き直ったことにより自己ベストを更新したという自らの経験をもとに、コントロールできない結果や記録ではなく、コントロール可能な「今、自分にできること」へ意識を向けること。

つまり、自分の認知活動を客観的に把握し、適切に調整する力である「メタ認知」が重要ではないかと結論付けた。

さらに、調査を続けた結果、メンタルの強化にあたっては、意識的にポジティブな言葉を心の中に投げかけ、自分の心をコントロールする「セルフトーク」が有効であることも判明した。

#### 【市への提案】

ホームアドバンテージという概念が示すとおり、本番の環境に慣れることが、結果につながると考え、市の公共スポーツ施設の積極的な開放を提案した。

加えて、本年秋から「姫カツ」が始まることに触れ、様々な事情を抱える中学生が、

スポーツに打ち込める環境を整えるよう提案した。

## 《意見交換》

### 【市長】

セルフトークにより、自分で自分の自己肯定感を高めることは、非常に重要だと思う。古来より存在する「言霊」という考え方にも通ずるところがある。

また、病気で満足に練習できなかった経験を、メンタル面からのみ分析しているが、実は「練習できなかったこと」が、フィジカル面でよい休養となり、結果につながった可能性もあるのではないか。

様々な可能性を分析することで、メンタル面もフィジカル面も成長し、ぜひ素晴らしい選手となってほしい。

### 【教育次長】

今日の発表は緊張したか。セルフトークは実践できたか。

### 【高校生】

少し緊張したが、セルフトークはできた。

### 【教育次長】

緊張やプレッシャーを乗り越えるためには、様々な要素があると思う。「セルフトーク」も一つの手段であり、練習を重ねて自信を持つことや、周囲からの応援によって気合が入ることもある。

これからの人生にとって、非常にプラスになる研究だと思うので、よりプレッシャーに打ち勝てる方法を学び、仲間に伝え、将来指導者になった際にも活かしてほしい。

## (3) 人はなぜ地域に愛着を持つのか

### 《高校生の探究発表》

過疎化が進む地域である神崎郡で生まれ育ち、多くの人に地元を離れてほしくないという思いから、人が地域に愛着を持つプロセスを研究した。

まず、姫路駅西で月1回開催されている「のきさき朝市」に着目し、何度も足を運び、参加者の意見を聴取する中で、大阪などから、朝市のために帰郷する人がいることに感銘を受けた。

また、知名度が低いという朝市の課題を解決するため、小学生が楽しめるイベントが多いという点を活かして、小学生向けのPR動画を作成し、近隣小中学校の児童に見てもらうことで、7割以上の児童に朝市に関心を持ってもらうとともに、地域の魅力発信にも貢献した。

次に、本市における人口減少の原因として、大学等への進学をきっかけとした転出に着目し、地域への愛着が育まれていれば、帰郷したいという思いを持つのではないかとの仮定から、高校生までに地域への愛着を形成する必要があると考えた。

加えて、愛着が形成されるプロセスを調べるため、高校生485名に対し、印象に残っている出来事及び大切に思う場所についてのアンケート調査を実施した。

1つ目の「印象に残っている出来事」の調査では、日常的な出来事よりも非日常的な出来事に関する回答が多く、具体的な内容としては、公園や山、川などの自然豊か

な場所で、友人や家族と過ごした思い出が多いことが判明した。よって、非日常的な体験を、日常的な場所で行うことにより、印象に残りやすいのではないかと考察した。

2つ目の「大切に思う場所」の調査では、日常的な場所に関する回答が多く、安心感を得られることが、大切に思う理由につながっているのではないかと推測した。また、将来的にも大切にしたいという意見も多いことから、地域に大切な場所が多ければ、将来的な定住意欲にもつながるのではないかと考察した。

以上のことから、印象的な出来事及び大切な場所は、どちらも愛着に関する重要な要素であり、強く印象に残るのは、非日常的な出来事だが、帰属意識を感じるのは、日々の生活に深く関わる日常的な場所であるとまとめ、加えて、人間関係も地域への愛着形成において重要な役割を果たしていると結論付けた。

今後は、探究活動を通して得た、現場で人の声を聞く力、データを分析する力、多くの人を巻き込む協働力の3つの力を活かし、フィールドワークと理論を組み合わせ、人と地域をつなぎ、現場の課題に向き合える人になりたいと考えている。

## 《意見交換》

### 【市長】

地域に愛着を持つという話について、自分も、幼少期に住んでいた田舎の風景が原風景となっており、発表のとおりだと感じた。

引き続き、調査を続ける中で、地域に愛着はあるが帰郷しない人や、帰郷したくないと思っている人、一度も故郷を離れない人など、様々なパターンの人たちに話を聞いてみると、より探究が深まるのではないかと思う。

### 【企画政策室長】

この人口減少社会において、我々も常に、どうすれば若者の転出を防げるかを考えている。

大学進学等による転出後、「本市が何をやっているか」を知らない子どもたちは、なかなか帰ってこないと思うため、高校生の皆さんが、探究学習で本市のことを調べ、関心を持ってくれていることは、非常にありがたいと思った。

また、「愛着」という観点について、本市としては、生まれ育った地元に対する愛着だけではなく、修学旅行等で訪れた地域に対する愛着にも注目している。どうすれば、住んでいない人、外から来た人にも、本市に対する愛着を持ってもらえるか。「愛着」を起点として、様々な方向から考えることができるため、本日の発表は、初期研究として大変素晴らしいものだった。

本日いただいた発想を活かし、人口減少対策に努めていきたい。

## (4) ツ。 ～津波と堤防の関係について～

### 《高校生の探究発表》

南海トラフ地震の30年以内の発生確率が80%と言われる中で、津波から姫路を、そして日本を守るために、効率よく波の力を分散し、減衰させることができる堤防の形状について研究を行った。

まず、実験方法として、水槽を使って疑似的な海と陸を作り、発泡スチロールで作

成した様々な堤防を設置した上で、海側の水を下敷きで押すことにより、疑似的な津波を発生させ、堤防に衝突させる実験を行った。なお、波の高さに基準を設け、基準外となったものは結果から除外した。

まずは、実験1として、波との設置面が①平面状、②鋸歯状、③曲線状の3種類の堤防を用意し、上記実験を実施した。1つ目の波が堤防に衝突した時点での水の流れを観察するとともに、堤防を越えて陸側に溢れた水の量と、波が収束するまでの時間を計測した。

結果、3種類の全ての堤防において、水が上方へと高く跳ね上がり、波の横向きの力は減衰されたが、上向きの力は減衰されないことが分かった。また、溢れた水の量は、①、③、②の順に多く、波が収束するまでの時間は、①、②、③の順に長く、特に③が顕著に短かった。

続いて、実験1の結果を受け、波の上向きの力を減衰させるため、3種類の堤防全ての天端に、反りのあるパーツを装着し、実験2を実施した。なお、反りのあるパーツによって堤防の高さが増したことから、実験1と条件を揃えるため、水を増やした。

すると、堤防を越えて陸側に溢れた水の量は、どの堤防においてもほぼ同じとなったため、1つ目の波が堤防に衝突した時点での水の流れを観察するとともに、波が収束するまでの時間を計測した。

結果、水の流れについては、どの堤防においても実験1と似た形となったが、反りのあるパーツを装着したことにより、波が反りに沿って跳ね返り、陸側に溢れる水の量は、全ての堤防において減少した。また、波が収束するまでの時間については、①、②、③の順に長く、実験1と同様に③が最も短い、全体的に実験1よりも時間がかかった。

以上の実験結果により、堤防の波との設置面を、平面状ではなく、鋸歯状や曲線状とすることで、堤防を越える水の量が減少することが確認できた。そのことから、鋸歯状の設置面は、水の流れの向きを変え、波の力を分散させる効果があり、曲線状の設置面は、水の流れの向きを変え、波の力を相殺させる効果があると考察した。

また、堤防の天端に反りのあるパーツを装着した実験2では、堤防を乗り越える水の量は大幅に減らせる一方、波が収束するまでの時間は延びることが分かった。

今後は、水の流れの可視性を高め、堤防による水流への干渉を正確に観測するために、水にラメを含ませることや、堤防の形状の種類を増やすことで、より深い考察につなげるほか、より本格的に大規模で連続的な波を発生させた場合における、堤防や地盤の耐久性に関する研究も行い、実用的な堤防の作成につなげたいと考えている。

## 《意見交換》

### 【市長】

仮説に対し、実験を行い、定量評価を行っているところが、非常に科学的だと思う。

今回は堤防に波を衝突させる形で実験を行ったが、逆に堤防側を動かすことで、堤防が波を切る際に、かかる圧力を測定するという方法もあるかもしれない。

ぜひ研究を続け、将来的には本市の港湾整備などにおいて活躍する人材となってもらいたい。素晴らしい試行錯誤だった。

### 【水産漁港課長】

人命を預かる重要な仕事でありながら、注目される機会が多くない分野に関心を持ってもらい、非常にうれしい。

この研究の原点には津波対策があると思うが、実は本市においては、南海トラフ地震発生時の津波よりも、台風などによる高潮の方が、高く想定されている。よって、本市における港湾整備は、高潮対策をメインに進められている。

今回行った実験について、使用した水槽はどれくらいの大きさか。

### 【高校生】

学校にあった 90 cm くらいの水槽を使用した。

### 【水産漁港課長】

その大きさの水槽だと、手を入れて自由に動かす隙間がないため、下敷きで波を起こすのは、非常に大変だったと思う。

また、実験 1 の結果を受けて、実験 2 に移行しているが、反りのあるパーツをつけるという発想は、どのように得たのか。

### 【高校生】

文献を参考にした部分もあるが、実験 1 の結果、水が上方へ跳ね上がったことから、その上向きの力を、波を減衰させる方向に誘導することで、無駄のない堤防を作ろうと考え、思いついた。

### 【水産漁港課長】

この反りのあるパーツは、実際の堤防においても、「波返し工」という名前で実用化されている。偶然にもそこにたどり着いており、非常に有益な実験だったと思う。

専門家の少ない分野であるため、ぜひ研究を続けていただき、将来、ともに働けることを楽しみにしている。

## (5) 姫路市を医療の観点から

### 《高校生の探究発表》

二次救急病院である赤穂市民病院において、最近、心臓カテーテル治療の可能な曜日が限定されたことから、その原因となった西播磨地区の医師不足に関心を持ち、調査を開始した。

65 歳以上の高齢者人口の割合が年々増加し、働き手の割合が減少する日本において、医療従事者だけでなく、介護従事者や介護施設等も不足している現状に着目し、今後のことを考えると、自分たちの力で病気を予防する必要があると結論付けた。

### 【市への提案】

まず、がん検診受診率が 12 年連続全国 1 位である山形県が実施している「健康マイレージ制度」に着目し、本市でも「ひめじポイント」を導入しているものの、認知度が低いことから、市公式LINE などによる情報発信を提案した。

また、手柄山平和公園に新しいスポーツ施設ができることに関連し、安全面での課題等はあるものの、茨城県境町で導入されている自動運転のコミュニティバスを活用すれば、市民の運動へのアクセスが容易になるのではないかと提案した。

加えて、医療機関への受診を促す取組について、通常の対面診療を補完する医療として、オンライン診療やハイブリッド診療、ウェアラブル端末の活用を推進するとともに、現在、本市で実施しているAIによる医療相談の実証実験にも注目し、具体的な病院のホームページを案内するなど、予約までスムーズにつながるシステムとすることや、15歳以下となっている対象年齢の拡大を提案した。

さらに、健康寿命の延伸には、孤独・孤立対策が重要であるとの観点から、高齢者の通いの場として、自宅から歩いて通える場所で、芸術鑑賞等が可能な場を設けることにより、孤独感や運動不足の解消につなげることを提案した。

最後に、医療情報の観点から、主な情報源が口コミとなっている現状を問題視し、本市の情報発信の現状と課題を分析した上で、情報が分散しており、求める情報を探しにくく、市民自らが探しに行くプル型中心となっていることから、その解決策として、市公式LINEを有効活用した情報の一元化や、プッシュ通知等での配信、内容の充実を提案した。

## 《意見交換》

### 【市長】

人口減少社会において、セーフティネットである医療や介護、福祉の維持は、最も大きな課題であり、そこに切り込んでいただいて、非常にありがたい。

医療情報の発信については、特に偽情報への注意が必要である。コロナ禍においては、様々な情報が錯綜し、誤った誘導を行う例が散見された。

本市では、発表内で紹介された取組以外に、#7119という救急医療電話相談も実施している。

今後、正しい情報を学習したAIによる診断システムを構築し、医療トリアージに活用することや、市公式LINEによるプッシュ型の情報発信について、検討していきたい。

### 【健康福祉局長】

様々なデータをもとに、現状の課題を把握し、解決策まで提案いただき、素晴らしい発表だった。

少し補足すると、西播磨地域の医師不足について触れていたが、本市の医療施設における人口10万対医師数は、研修医に対する奨学金制度の導入等により、近年、全国平均に並んでいる。

また、AIによる医療相談の実証実験については、従来行っていた「姫路市救急医療電話相談（小児科）」により蓄積した相談記録データをAIに学習させているため、15歳以下が対象となっている。今後、検証結果を踏まえて、対象年齢の拡大も含め導入を検討したい。

加えて、市ホームページにおいて、「医療情報ネット（ナビィ）」という、医療機関を検索するシステムも案内しているため、ぜひ活用してほしい。

## (6) 姫路菓子みやげの特徴 ～各地と比較して～

### 《高校生の探究発表》

本市の知名度をさらに向上させるため、高校生にとっても身近な存在である菓子みやげに注目し、本市の具体的な3種類の菓子みやげと、全国の有名な菓子みやげを比較し、どのような特徴があるかを調査した。

研究方法としては、先行研究をもとに、全国の空港で販売されている有名な菓子みやげ9個を抽出し、特別枠とした山梨県の銘菓を加え、それらの特徴を分析した。本市の菓子みやげ3種についても同様に分析を行い、その特徴を比較した。

具体的には、大きさ、価格、メディア利用数、形、箱及び個包装の色の系統、歴史背景（誕生経緯）、名前の由来の7つの項目を調査した。

まず、数値化が可能な大きさ、価格、メディア利用数について、集めたデータをもとに5段階の基準を設定し、三角グラフに表したところ、1つの要素のみが高い数値を取る一部特化型、2つの要素が高い数値を取る部分型、3つの要素全てが高い数値を取る総合型に分類することができた。

本市の菓子みやげについても、同様の分析を行い、その結果を比較したところ、全国の有名な菓子みやげに比べ、メディア利用数が少なく、宣伝手段が少ないことが分かった。

また、残りの項目については、それぞれ表に整理し、該当する菓子みやげの多い特徴をまとめ、分析したところ、全国の有名な菓子みやげは、丸型の形状で、箱や個包装は暖色系、企業の売上向上を目的として生み出され、使用素材を名前に取り入れているものが多いことが分かった。特に、企業の売上向上を目的として生み出されたことに注目し、マーケティング戦略が重要であると分析した。

これらの結論を踏まえ、今後は調査対象とする菓子みやげを増やし、味や賞味期限という観点も加えて調査を行うことにより、本市の菓子みやげの魅力を最大限に発揮するためには何が必要であるかを分析し、その結果を反映させることで、本市の知名度向上を図りたいと考えている。

### 《意見交換》

#### 【市長】

まず、なぜ山梨県の銘菓を特別枠として調査対象に加えたのか。

#### 【高校生】

山梨県の銘菓は、コンビニや有名な飲食店とコラボレーションを実施しており、本市の菓子みやげも、同様にコラボレーションを実施できればよいのではないかと思い、モデルにしようと考え、採用した。

#### 【市長】

別の視点にはなるが、山梨県の銘菓は、きれいに食べることが難しいことで有名だ。本市の菓子みやげの一部にも、そういう特徴がある。実は、味などの単純な理由だけではなく、きれいに食べるという攻略的な要素も、人を惹きつけている可能性があるのではないか。本市の菓子みやげで、きれいに食べるコンテストを実施すれば、注目を集められるかもしれない。

また、他にも有名な菓子みやげは多々あると思うが、この9種類を抽出した理由は何か。

**【高校生】**

先行研究で取り上げられていた菓子みやげから抽出した。

**【市長】**

先行研究では、空港で販売されている菓子みやげが取り上げられていたが、本市には空港がない。よって、新幹線を利用する際に、気軽に買えるような菓子みやげを抽出した方が、不要なバイアスを減らせたかもしれない。

我々も数値にこだわって市政を進めているが、仮説を立てる際や、データを取得する際におけるデータクレンジングは非常に重要で、そこが間違っていると、誤った結果が得られてしまう。比較検討の際には、可能なかぎりバイアスを除外することを、ぜひ意識してほしい。

**【観光コンベンション室主幹】**

現在、姫路駅と姫路城の間に、新しい観光案内所を開設しようとしている。そこで本市の土産物を販売する予定であるため、非常にタイムリーな話題だった。

本市の菓子みやげは、味はよいが、パッケージなどのデザインに課題があると感じている。観光案内所を運営する事業者にも、デザインの再考を求めたいと考えているため、非常に参考となるプレゼンだった。

ちなみに、今後、本市の菓子みやげを売り込むにあたり、どのような属性の人をターゲットにすればよいと思うか。

**【高校生】**

あまり考えていなかったが、外国人よりは、日本人を想定して研究していた。今後は、ターゲット層も絞り込んで考えたい。

**【観光コンベンション室主幹】**

ぜひ、今後の研究の成果についても、教えてほしい。

**(7) 総括**

**【市長】**

どれも高校生らしい視点で、非常に興味深い発表だった。未完の部分はあると感じるが、今後学んでいく際の伸びしろだと思う。様々な人の意見を聴取し、ぜひ研究を深めてほしい。

**【総合教育監】**

それぞれ関心あるテーマを研究し、今回非常に短い時間でプレゼンをしてもらったが、その裏には、発表しきれない様々な試行錯誤があったと思う。そのようなプロセスの中で学んだことも含め、今後の自分の糧としてもらいたい。

また、一つアドバイスとして、現代はAIが発達しており、正しく利用すれば、非常に有効な学びのパートナーになると思う。自らの思考が停止しないよう気を付けながら、ぜひ有効に活用してもらいたい。